

## 人間形成概論

### 授業の目的・概要

本授業では、人間関係やコミュニケーションに関する心理学的知識を学び、社会人として必要な対人理解力と自己理解力を身につけることを目的とする。パーソナリティや対人認知、感情、ストレス、動機付けなどについて学習し、自分自身や他者への理解を深める。また、ディスカッションやグループワーク、アサーショントレーニング、カウンセリング演習を通して、円滑なコミュニケーション能力や対人スキルを養う。さらに、リーダーシップやコーチング、集団行動について理解を深め、職場や社会において協調性を持ちながら主体的に行動できる人材育成を目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 長岡   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ・    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うとともに、グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分析する。

### 授業計画

- 1 回 講師の自己紹介、生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1)・対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2)・原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1)・人間関係、コミュニケーションについて
- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2)・言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ

- 8回 インターネット依存症について
- 9回 感情について
- 10回 ストレスについて(1)-ストレスとは
- 11回 ストレスについて(2)-ストレスへの対処法とは
- 12回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13回 アサーショントレーニングについて
- 14回 前期まとめ(1)-前期授業のまとめ
- 15回 前期まとめ(2)-前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16回 前期試験
- 17回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 18回 交流分析とマインドフルネス(1)-コミュニケーションを理解する観察法
- 19回 交流分析とマインドフルネス(2)-交流パターンの分析について
- 20回 カウンセリング、悩み相談について(1)-カウンセリングと悩み相談について
- 21回 カウンセリング、悩み相談について(1)-グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 22回 動機付け(1)-欲求、動機付けについて
- 23回 動機付け(2)-情動、自己効力感について
- 24回 集団について(1)-集団規範とは
- 25回 集団について(2)-他者から与えられる影響について
- 26回 コーチングについて
- 27回 リーダーシップ(1)-リーダーシップの歴史について
- 28回 リーダーシップ(2)-仕事での集団の形について
- 29回 人間関係を難しくする障害
- 30回 後期まとめ(1)-後期授業のまとめ
- 31回 後期まとめ(2)-後期内容についてのまとめ問題を実施
- 32回 後期試験
- 33回 社会人としての人間性

34 回 将来の為の人間形成

35 回 1 年間の総仕上げ

#### 授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

#### 教材

山篇圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）

ISBN 978-4-525-50451-9

#### 評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、

試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

#### 実務経験と授業科目の関係

・

# ビジネスマナー

## 授業の目的・概要

本授業では、動物業界への就職を目指す学生が、現場で求められる基本的なビジネスマナーおよび社会人基礎力を体系的に習得することを目的とする。自己紹介や校舎見学を通じて基本的な対人行動や施設利用マナーを学び、研修旅行の事前・事後学習により動物関連施設の理解を深め、就職先としての視点を養う。さらに、名刺交換や電話対応の実践、デジタル履歴書や挨拶文・お礼状の作成など、実務に直結するスキルを段階的に習得する。加えて、職種や業務内容、必要な知識・技術・姿勢についての理解を深めることで自己分析を促し、職業適性の把握とキャリア形成につなげる。

|      |       |         |     |
|------|-------|---------|-----|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 潮見  |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年    | 年間単位数   | 1単位 |

## 目標

インターンシップに必要な書類の準備が適切に行えるようになる。

デジタル履歴書やお礼状、挨拶文、インターン前の電話などを一人でも充分に行えるようになる。

## 授業の計画

- 1回 自主行動型自己紹介
- 2回 校舎見学(受付の利用方法や券売機の使い方・エレベーターマナー)
- 3回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)、ルールブック読み合わせ
- 4回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討、学生要覧読み合わせ
- 5回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、名刺交換説明①
- 6回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題、名刺交換説明②
- 7回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化、名刺交換実践①
- 8回 名刺交換実践②
- 9回 デジタル履歴書作成方法①ダウンロード及び購入方法について
- 10回 デジタル履歴書作成方法②個人情報
- 11回 デジタル履歴書作成方法③学歴/職歴
- 12回 デジタル履歴書作成方法④自己紹介書
- 13回 デジタル履歴書作成方法⑤自己紹介書
- 14回 挨拶文・お礼状作成①書き方
- 15回 挨拶文・お礼状作成②実践
- 16回 挨拶文・お礼状作成③実践

- 17回 前期の振り返り
- 18回 前期試験
- 19回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 20回 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 21回 仕事内容理解③—1日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 22回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 23回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 24回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 25回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 26回 電話対応①電話機操作方法、話し方、電話例
- 27回 電話対応②実践 1 回目
- 28回 電話対応③実践 1 回目
- 29回 電話対応④実践 1 回目
- 30回 電話対応⑤実践 2 回目
- 31回 電話対応⑥実践 2 回目
- 32回 後期の振り返り
- 33回 後期試験
- 34回 総復習、振り返り①
- 35回 総復習、振り返り②

#### 授業の方法

学校生活や就職、今後のキャリア形成に繋がる講義を行う。

#### 教材

自作プリントを適宜配布する。

#### 評価の方法

期末試験 60%、レポートの取り組み姿勢 50%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

配布しているルールブック、学生要覧、インターンのしおりを見て重要な部分はメモをとる。

インターンシップに参加するまでにデジタル履歴書を仕上げる。

#### 実務経験と授業科目の関係

あり

## 資格対策

### 授業の目的・概要

本授業では、サービス接遇検定および愛玩動物飼養管理士資格の取得を目指し、試験範囲に基づいた知識と実践力を身につけることを目的とする。サービス接遇検定では、接客に必要な接遇マナーや対人技能、実務知識について学び、模擬試験を通して理解を深める。愛玩動物飼養管理士対策では、動物の行動学、栄養学、愛護・法規、生活環境学など幅広い分野を学習し、課題演習やデジタル講義、模擬試験を通して試験対応力を養う。継続的な学習習慣を身につけ、資格取得を通して動物業界で求められる基礎知識と実践力の修得を目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 萩野   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | あり   |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 4 単位 |

### 目標

資格試験に合格することができる。

サービス接遇検定⇒模擬テスト各回 6 割以上の正答率を出すことができる。

愛玩動物飼養管理士⇒受験資格の取得(講習会と課題提出の達成)、模擬テスト各回 8 割以上の正答率を出すことができる。

### 授業計画

- 第1週 オリエンテーション(受験申込書記入/試験概要の説明(愛玩含む))
- 第2週 試験範囲の配布(サービススタッフの資質、専門知識、一般知識、対人技能、実務技能)
- 第3週 試験範囲対策及び説明
- 第4週 模擬テスト①
- 第5週 模擬テスト②
- 第6週 模擬テスト③
- 第7週 模擬テスト④
- 第8週 オリエンテーション(教科書配布/スクーリング講習と提出課題の告知/マイページ作成)
- 第9週 スクーリング講習①
- 第10週 スクーリング講習②
- 第11週 スクーリング講習③
- 第12週 マークシート課題実施期間①
- 第13週 マークシート課題実施期間②
- 第14週 マークシート課題実施期間③
- 第15週 マークシート課題実施期間④(提出日)

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 第 16 週 | 前期の振り返り                      |
| 第 17 週 | 前期試験                         |
| 第 18 週 | 問題集解答及び解説配布                  |
| 第 19 週 | デジタル講義(行動学・栄養学)              |
| 第 20 週 | デジタル講義(愛護・法規)                |
| 第 21 週 | デジタル講義(動物学・指導論)              |
| 第 22 週 | デジタル講義(生活環境学・産業概論)           |
| 第 23 週 | 模擬テスト期間①                     |
| 第 24 週 | 模擬テスト期間②                     |
| 第 25 週 | 模擬テスト期間③                     |
| 第 26 週 | 模擬テスト期間④                     |
| 第 27 週 | 試験直前案内及び総復習                  |
| 第 28 週 | 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策 |
| 第 29 週 | 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策 |
| 第 30 週 | 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策 |
| 第 31 週 | 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策 |
| 第 32 週 | 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策 |
| 第 33 週 | 後期の振り返り                      |
| 第 34 週 | 後期試験                         |
| 第 35 週 | 1 年間の総まとめ                    |

#### 授業の方法

講義も交えつつ、模擬テストを繰り返し行い試験日までに合格ラインに到達する。

#### 教材

サービス接遇検定実問題集/愛玩動物飼養管理士教本 2 冊/スクーリング資料/課題報告問題集

#### 評価の方法

期末試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

サービス接遇検定実問題集の解答を行う。  
愛玩動物飼養管理士のスクーリング講習を受講し、課題報告問題を解きマークシートに解答する。

#### 実務経験と授業科目の関係

・

## 接客演習Ⅰ

### 授業の目的・概要

本授業では、動物業界への就職に必要な基礎知識や社会人としてのマナー、就職活動に向けた実践力を身につけることを目的とする。研修旅行を通して業界理解や職種理解を深め、施設見学やグループワークを通じて就職先を多角的に考察する力を養う。また、言葉遣いや接客対応、ビジネスマナー、相手目線に立ったコミュニケーションについて学び、社会人基礎力を高める。さらに、自己分析や履歴書作成、模擬面接を通して、自身の適性や将来像を明確にし、希望する進路に向けて主体的に行動できる力を育成する。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 荻野   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

- ・演習を通して、対面、文書共に社会人としての言葉遣いを身につける
- ・演習を通して、名刺交換や面接時の所作等、ビジネスシーンに必要なマナーを身につける
- ・履歴書、お礼状が書けるようになる
- ・研修や下調べを通して、業界理解を深める
- ・自己理解のフレームワークを通して、自分と向き合い自己理解を深めることで就活に役立てる
- ・社会人として生活していくうえで必要最低限の知識を理解する

### 授業計画

- 第1回 授業説明、自己紹介
- 第2回 アルバイトについて
- 第3回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ（グループワーク）
- 第4回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討

- 第 5 回 研修旅行事後学習①―見学内容の整理と共有
- 第 6 回 研修旅行事後学習②―就職先としての魅力と課題
- 第 7 回 研修旅行事後学習③―就職先比較と理解の深化
- 第 8 回 言葉遣いについて①―対面コミュニケーション(電話含む)
- 第 9 回 言葉遣いについて②―文書(メール含む)
- 第 10 回 ビジネスにおける、相手目線に立つという事について
- 第 11 回 自己理解①―フレームワークに則って自身の特徴を理解する
- 第 12 回 自己理解②―自身の特徴から、希望する就職先を具体化していく
- 第 13 回 履歴書作成①―履歴書を書くにあたってのルール説明から取り掛かり
- 第 14 回 履歴書作成②―履歴書の仮仕上げからフィードバックまで
- 第 15 回 履歴書作成③―履歴書のフィードバックから完成まで
- 第 16 回 前期授業の振り返り
- 第 17 回 前期試験
- 第 18 回 仕事内容理解①―就職先に想定される職種(含 研修旅行事前学習)
- 第 19 回 仕事内容理解②―職種別業務内容(含 研修旅行事前学習)
- 第 20 回 仕事内容理解③―1 日の仕事の流れ(含 研修旅行事前学習)
- 第 21 回 仕事内容理解④―必要な知識・技術・姿勢(含 研修旅行事前学習)
- 第 22 回 研修旅行事後学習①―仕事内容の整理
- 第 23 回 研修旅行事後学習②―仕事のやりがい・大変さ
- 第 24 回 研修旅行事後学習③―自分との適性を考える
- 第 25 回 接客で必要なこと①―心得、考え方
- 第 26 回 接客で必要なこと②―話し方
- 第 27 回 面接対策①―心得、考え方
- 第 28 回 面接対策②―所作、基本的な質疑応答
- 第 29 回 模擬面接
- 第 30 回 お金についてのモラル、マナー(給料、税金、固定費等について)

第 31 回 これまでの総復習①

第 32 回 これまでの総復習②

第 33 回 後期試験

第 34 回 1 年生の振り返りと 2 年生に向けて①

第 35 回 1 年生の振り返りと 2 年生に向けて②

#### 授業の方法

基礎知識や予備知識については随時口頭で伝える。

#### 教材

基本的に教材はなく、必要な情報を適宜自作のプリントや板書等にて伝える。

#### 評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に判断する。

#### 授業外での学習方法

研修先、就職希望先の下調べ学習

授業内容を学校生活内でも日常的に取り組む

日々の生活の中での意識、対応

#### 実務経験と授業科目の関係

・

# コンピューター実習 I

## 授業の目的・概要

**Microsoft Word:** 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

**Microsoft Excel:** 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

**Microsoft PowerPoint:** 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 姉崎   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ・    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 2 単位 |

## 目標

### 前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

### 後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

## 授業計画

### 前期

第 0 1 週 : オリエンテーリング授業概要、評定基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 週 : Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第 0 3 週 : PowerPoint (1) PowerPoint の概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマ

の適用、ブレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第04週:PowerPoint(2)図形の挿入、SmartArt、練習問題

第05週:PowerPoint(3)スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題

第06週:PowerPoint(4)PowerPointの振り返り

第07週:Word(1)作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入

第08週:Word(3)段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題

第09週:Word(4)文書作成の振り返り

第10週:Word(5)ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、

第11週:Word(6)表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り

第12週:Word(7)表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定

第13週:Word(7)表のある文書を作成しよう①第3、4章の振り返り、答え合わせ

第14週:Word(8)表のある文書を作成しよう②第3、4章の振り返り、答え合わせ

第15週:Word(9)期末試験対策

第16週:確認テスト

第17週:自主学習:Wordでポスターを作る方法をレポートにまとめる。

第18週:前期期末試験の返却

## 後期

第19週:後期授業概要、評定基準

第20週:Excel(1)Excelの概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、オートフィル、書式のコピー

第21週:Excel(2)データや数式の入力の振り返り

第22週:Excel(4)オートSUM関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷

第23週:Excel(6)関数や相対参照と絶対参照の振り返り

- 第 2 4 週 :Excel ( 7 ) 円グラフ、縦棒グラフの作成
- 第 2 5 週 :Excel ( 8 ) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 6 週 :Excel ( 8 ) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 7 週 :Excel ( 9 ) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式
- 第 2 8 週 :Excel ( 1 0 ) データベース機能の振り返り
- 第 2 9 週 :Word の差し込み印刷
- 第 3 0 週 : 外部アプリからのデータを貼り付け
- 第 3 1 週 :Excel ( 1 1 ) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り
- 第 3 2 週 :Excel ( 1 2 ) 期末試験対策②データベース機能の振り返り
- 第 3 3 週 :確認テスト
- 第 3 4 週 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる
- 第 3 5 週 :確認テスト返却

#### 授業の方法

コンピューターによる演習

#### 教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』  
(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

#### 評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2 0 2 6 年度」内に指定のファイルがあることことこと
- 試験点：前期・後期期末試験で集計した成績

#### 授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくとともに、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係

\*

## インターンシップ

### 授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 林    |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年次  | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

### 授業計画

- 第1回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第2回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第3回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション

|        |           |                  |
|--------|-----------|------------------|
| 第 4 回  | インターンシップ② | 施設見学と業務内容の把握     |
| 第 5 回  | インターンシップ③ | 接客・来客対応の補助       |
| 第 6 回  | インターンシップ④ | 電話対応・受付業務の補助     |
| 第 7 回  | インターンシップ⑤ | 施設内清掃・衛生管理業務     |
| 第 8 回  | インターンシップ⑥ | 飼育環境の整備と安全確認     |
| 第 9 回  | インターンシップ⑦ | 動物の健康観察と記録       |
| 第 10 回 | インターンシップ⑧ | 給餌・給水業務の補助       |
| 第 11 回 | インターンシップ⑨ | 動物の保定補助          |
| 第 12 回 | インターンシップ⑩ | 日常ケア業務の補助        |
| 第 13 回 | インターンシップ⑪ | 施設備品・消耗品管理       |
| 第 14 回 | インターンシップ⑫ | 顧客対応・コミュニケーション実践 |
| 第 15 回 | インターンシップ⑬ | チーム業務への参加        |
| 第 16 回 | インターンシップ⑭ | 担当業務の実践①         |
| 第 17 回 | インターンシップ⑮ | 担当業務の実践②         |
| 第 18 回 | インターンシップ⑯ | 担当業務の実践③         |
| 第 19 回 | インターンシップ⑰ | 担当業務の実践④         |
| 第 20 回 | インターンシップ⑱ | 担当業務の実践⑤         |
| 第 21 回 | インターンシップ⑲ | 担当業務の実践⑥         |
| 第 22 回 | インターンシップ⑳ | 担当業務の実践⑦         |
| 第 23 回 | インターンシップ㉑ | 担当業務の実践⑧         |
| 第 24 回 | インターンシップ㉒ | 担当業務の実践⑨         |
| 第 25 回 | インターンシップ㉓ | 担当業務の実践⑩         |
| 第 26 回 | インターンシップ㉔ | 担当業務の実践⑪         |
| 第 27 回 | インターンシップ㉕ | 担当業務の実践⑫         |
| 第 28 回 | インターンシップ㉖ | 担当業務の実践⑬         |
| 第 29 回 | インターンシップ㉗ | 担当業務の実践⑭         |
| 第 30 回 | インターンシップ㉘ | 担当業務の実践⑮         |

- 第 31 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑥  
 第 32 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑦  
 第 33 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑧  
 第 34 回 インターンシップ②③ 総合実践・就業力向上  
 第 35 回 インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理

#### 授業の方法

インターンによる実践。

#### 教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

#### 評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

#### 実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

## 特別活動Ⅰ

### 授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 林    |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年次  | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

### 授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加①
- 第 9 回 研修旅行への参加②

- 第 10 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 11 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 12 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 13 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 14 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 15 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 16 回 校外実習への参加①
- 第 17 回 校外実習への参加②
- 第 18 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 19 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 22 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 23 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 24 回 KAP エキスポへの参加①
- 第 25 回 KAP エキスポへの参加②
- 第 26 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 27 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 28 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 29 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 30 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 31 回 卒業研究発表会への参加①
- 第 32 回 卒業研究発表会への参加②
- 第 33 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 34 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）
- 第 35 回 2 年生に向けての準備

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

#### 教材

特にないが、必要に応じで資料を配布していく。

#### 評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。  
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

#### 実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

## ホームルーム/動物基礎演習

### 授業の目的・概要

本授業では、学校生活や就職活動、社会人として必要となる基本的なビジネスマナーとコミュニケーション能力の習得を目的とする。研修旅行における事前・事後学習を通して業界理解や職業観を深めるとともに、名刺交換、電話対応、挨拶文・お礼状作成などの実践的なビジネスマナーを学ぶ。また、デジタル履歴書の作成や面談を通して自己理解を深め、就職活動に必要な基礎力を養う。グループワークや実践演習を取り入れ、主体性や協調性、社会人としての適切な行動力を身につけることを目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 姉崎   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | -    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 3 単位 |

### 目標

インターンシップに必要な書類の準備が適切に行えるようになる。

デジタル履歴書やお礼状、挨拶文、インターン前の電話などを一人でも充分に行えるようになる。

## 授業計画

- 1回 自主行動型自己紹介、面談①
- 2回 校舎見学(受付の利用方法や券売機の使い方・エレベーターマナー) 面談②
- 3回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)、ルールブック読み合わせ
- 4回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討、学生要覧読み合わせ
- 5回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、名刺交換説明①
- 6回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題、名刺交換説明②
- 7回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化、名刺交換実践①
- 8回 名刺交換実践②
- 9回 デジタル履歴書作成方法①ダウンロード及び購入方法について
- 10回 デジタル履歴書作成方法②個人情報
- 11回 デジタル履歴書作成方法③学歴/職歴
- 12回 デジタル履歴書作成方法④自己紹介書
- 13回 デジタル履歴書作成方法⑤自己紹介書
- 14回 挨拶文・お礼状作成①書き方
- 15回 挨拶文・お礼状作成②実践
- 16回 挨拶文・お礼状作成③実践
- 17回 前期の振り返り
- 18回 前期試験
- 19回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種(含 研修旅行事前学習)
- 20回 仕事内容理解②—職種別業務内容(含 研修旅行事前学習)
- 21回 仕事内容理解③—1日の仕事の流れ(含 研修旅行事前学習)
- 22回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢(含 研修旅行事前学習)

## 授業の方法

- 24回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがいと大変さ。
- 25回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える

## 教材

- 27回 電話対応②実践 1 回目
- 28回 電話対応③実践 1 回目

## 評価の方法

前学期試験/授業の取り組み態度/出席率 50%  
授業外での学習方法

配布しているルールブック、学生要覧、インターンのしおりを見て重要な部分はメモをとる。

- 32回 後期の振り返り
- 33回 後期試験—参加するまでにデジタル履歴書を仕上げる。

## 実務経験と授業科目の関係

- 35回 総復習・振り返り②  
実際の就職活動や社会実経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

## エキゾチックアニマルⅠ

### 授業の目的・概要

本授業では、エキゾチックアニマルに関する基礎知識および飼育管理、健康管理に必要な知識を体系的に修得することを目的とする。ハムスター、ウサギ、モルモット、フェレット、チンチラなどの代表的なエキゾチックアニマルについて、生理学的特徴、行動特性、繁殖、適切な飼育方法および主な疾病について学び、種ごとの違いを理解する。また、それぞれの動物に適した飼育環境や健康管理方法を身に付けることで、動物看護の現場において適切な助言や対応ができる基礎的能力を養う。さらに、適正飼養の観点から動物福祉に配慮した知識の定着を図る。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 伊勢   |
| コース  | *     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

#### 前期

エキゾチックアニマルの概要、ペットや飼育動物の定義を理解し、説明できるようになる。

ハムスターについての生態や特徴、飼育時の注意や病気について理解し、説明できるようになる。

#### 後期

ウサギ、モルモットについての生態や特徴、飼育時の注意や病気について理解し、説明できるようになる。

### 授業計画

第 1 回 オリエンテーション（アイスブレイク・自己紹介／エキゾチックアニマルの概要）

第 2 回 ハムスターの基礎知識と特徴

第 3 回 ハムスターの特徴と生理学的特徴

第 4 回 ハムスターの繁殖と飼育管理

第 5 回 ハムスターの飼育と疾患

第 6 回 ウサギの基礎知識と特徴

第 7 回 ウサギの特徴と生理学的特徴

第 8 回 ウサギの繁殖と飼育管理

第 9 回 ウサギの飼育と疾患

|                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 第 10 回                | 小テスト / モルモットの基礎知識   |
| 第 11 回                | モルモットの特徴と生理学的特徴     |
| 第 12 回                | モルモットの繁殖と飼育管理       |
| 第 13 回                | モルモットの飼育と疾患         |
| 第 14 回                | 試験対策 (総合復習 ①)       |
| 第 15 回                | 試験対策 (総合復習 ②)       |
| 第 16 回 前期試験           |                     |
| 第 17 回                | オリエンテーション (後期授業の概要) |
| 第 18 回                | フェレットの基礎知識と特徴       |
| 第 19 回                | フェレットの生理学的特徴と繁殖     |
| 第 20 回                | フェレットの飼育と疾患         |
| 第 21 回                | 復習・小テスト             |
| 第 22 回                | チンチラの基礎知識と特徴        |
| 第 23 回                | チンチラの生理学的特徴と繁殖      |
| 第 24 回                | チンチラの飼育と疾患          |
| 第 25 回                | 復習・小テスト             |
| 第 26 回                | 試験対策 (総合復習 ③)       |
| 第 27 回                | 試験対策 (総合復習 ④)       |
| 第 28 回                | 試験対策 (総合復習 ⑤)       |
| 第 29 回                | 総合復習 (重要ポイント整理)     |
| 第 30 回                | 総合復習 (ケーススタディ)      |
| 第 31 回                | 総合復習 (応用問題演習)       |
| 第 32 回                | 総合復習 (グループ学習)       |
| 第 33 回                | 総合整理・最終確認           |
| 第 34 回                | 後期試験                |
| 第 35 回 総まとめ (年間の振り返り) |                     |

## 授業の方法

講義

## 教材

霍野晋吉 横須賀誠『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編』(緑書房、2012 初版)

## 評価の方法

期末試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として各回の小動物に関する情報を、書籍・文献等を活用して仕入れておく。

事後学習として各回のポイントをノートにまとめ、復習する。

実務経験と授業科目の関係

あり

# 家畜学Ⅰ

## 授業の目的・概要

本授業では、家畜動物の定義や役割について理解を深めるとともに、ウシ・ブタ・ウマ・ニワトリを中心とした主要家畜の特徴を学ぶ。各家畜の体の構造や生理的特徴、品種、飼育管理、栄養、施設設備、疾病について体系的に学習し、動物業界で必要となる基礎知識を身につけることを目的とする。また、家畜伝染病予防法をはじめとした衛生管理や疾病予防について理解し、動物福祉や安全な飼育管理への意識を養う。実際の現場で求められる観察力や基礎的判断力を培い、畜産・動物関連分野への理解を深める授業とする。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 金田   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年次  | 年間単位数   | 1 単位 |

## 目標

### 前期

家畜動物についての概要、ウシの体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病およびブタについてのウシの体の特徴について理解することができる。

### 後期

ブタ飼育に関する知識、生産物や疾病およびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解することができる。

## 授業計画

- 1 回 家畜動物の定義について
- 2 回 ウシの概要について（ウシとは）
- 3 回 ウシの概要について（ウシとは）、ウシの体の構造について（前軀）
- 4 回 ウシの体の構造について（後軀）

- 5回 ウシの体の構造について（内臓、生理的特徴）
- 6回 ウシの品種について、ウシの飼育について
- 7回 ウシの飼育について（施設について）
- 8回 ウシの飼育について（餌、栄養について）
- 9回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法）
- 10回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法対象外の疾病について）
- 11回 ブタの概要について
- 12回 ブタの体の構造について（前軀）
- 13回 ブタの体の構造について（後軀）
- 14回 ブタの飼育について（施設について）
- 15回 ブタの飼育について（餌、栄養について）
- 16回 ブタの疾病について
- 17回 前期の振り返り
- 18回 前期試験
- 19回 ウマの概要について
- 20回 ウマの体の構造について（前軀）
- 21回 ウマの体の構造について（後軀）
- 22回 ウマの品種について（軽種、中間種）
- 23回 ウマの品種について（重種、ポニーなど）、ウマの飼育について（施設について）
- 24回 ウマの飼育について（餌について）
- 25回 ウマの飼育について（用品について）
- 26回 ウマの疾病について（蹄に関わる疾病）
- 27回 ウマの疾病について（蹄以外の疾病）
- 28回 ニワトリの概要について
- 29回 ニワトリの体の構造について
- 30回 ニワトリの品種について

31 回 ニワトリの飼育について

32 回 ニワトリの疾病について

33 回 後期の振り返り

34 回 後期試験

35 回 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリントを用いて内容を解説していく。

#### 教材

農学基礎セミナー 新版家畜飼育の基礎

⇒著者：阿部 亮、発行日：2014 年 1 月 15 日 第 6 刷発行

#### 評価の方法

期末試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

#### 実務経験と授業科目の関係

・

# 飼育用品概論 I

## 授業の目的・概要

本授業では、犬や猫を中心とした飼育用品について基礎から体系的に学び、動物の健康維持や快適な生活環境づくりに必要な知識を身につけることを目的とする。ライフステージや動物種ごとの特性、動物福祉の視点を踏まえながら、フード、住環境用品、ケア用品、移動用品、しつけ用品など多様な飼育用品の特徴や適切な選び方を理解する。また、安全性や素材、誤飲・中毒防止、市場トレンドや飼い主ニーズについても学習し、実際の接客や提案に活かせる力を養う。さらに、高齢動物や特殊な飼育環境への対応、エンリッチメントの考え方について理解を深め、動物と飼い主双方に配慮できる実践的な知識の習得を目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 津田   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

## 目標

一年を通してペットショップで取り扱われている用品全般の特徴や使用方法、注意点などを把握し生体ごとの適している物などについて理解をし、接客などで話すことができる。

## 授業計画

- 1回 飼育用品概論 I とは、何をしていくか
- 2回 犬と猫の違いから見る用品の考え方
- 3回 ライフステージ別用品の説明
- 4回 動物福祉と飼育用品の関係
- 5回 安全性と素材(誤飲・中毒・耐久性)
- 6回 飼い主様のニーズと市場トレンド(SNS・高機能化)
- 7回 フードの種類(ドライ・ウェット・療法食)
- 8回 食器と給水器の種類
- 9回 自動機器の仕組みと活用
- 10回 おやつ・サプリメントと注意点
- 11回 ケージ・クレート・サークルの違いや選び方
- 12回 ベッド・マットの種類や選び方
- 13回 トイレ用品について
- 14回 猫のトイレ砂の種類と特徴
- 15回 前期のまとめ
- 16回 前期試験
- 17回 室内環境(湿度・温度・空調グッズ)
- 18回 首輪・ハーネス・リードの種類

- 19回 キャリーケース・移動用品
- 20回 散歩グッズ（マナー用品・安全用品）
- 21回 迷子防止用品（迷子札・GPS など）
- 22回 多頭飼育・大型犬・特殊ケース用品
- 23回 ブラシ・コームの種類と使い分け
- 24回 シャンプー・ケア用品（皮膚・被毛）
- 25回 爪切り・耳掃除・デンタルケア用品
- 26回 ノミ・ダニ対策用品
- 27回 高齢動物向け用品（介護グッズ）
- 28回 おもちゃの種類と役割（ストレス・運動）
- 29回 知育トイ・エンリッチメント
- 30回 しつけ用品（トレーニンググッズ）
- 31回 後期のまとめ
- 32回 後期試験
- 33回 1年間の総まとめ①
- 34回 1年間の総まとめ②
- 35回 飼育用品の意義

#### 授業の方法

グループディスカッション・座学

#### 教材

必要に応じて自作プリントを配布する。

#### 評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

授業で扱う飼育用品や動物種について事前に調べ、用品の用途や特徴、疑問点を整理したうえで授業に臨む。授業後は配布資料やノートを見直し、用品ごとの特徴や適切な使用方法を復習するとともに、店舗やオンライン情報を活用して理解を深める。

#### 実務経験と授業科目の関係

-

# コンパニオンドッグ I

## 授業の目的・概要

本授業では、コンパニオンドッグとしての犬について、歴史的背景や人との関わりを踏まえながら、犬種の成り立ちや分類、特徴について体系的に学ぶことを目的とする。犬の体型、被毛、カラー、なりやすい疾患などの基礎知識を理解するとともに、FCI グループ分類に基づく各犬種の特徴や役割について学習する。また、人気犬種を含む多様な犬種の特性を比較し、飼育管理や接し方への理解を深める。講義を通して、犬に関する専門的知識を身につけ、適切な飼育指導や接客対応ができる基礎力の修得を目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 福田   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ・    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

## 目標

- ・犬種ごとの特徴（分類、歴史、性格、適切な飼育環境、行動特性など）を学び、適切な飼育・管理およびケアに関する基礎知識を習得することができる。
- ・日本での人気犬種について学び、犬種ごとの特徴について説明することができる。
- ・グループごとに犬種について学び、説明することができる。

## 授業計画

### 第1回 自己紹介

第2回 コンパニオンドッグとは（動物と犬と人の歴史）・犬種の成り立ち、犬の被毛、カラー

第3回 犬の基礎知識（犬の体型、なりやすい病気）

第4回 犬の種類のグループ分けについて（1G、2G、3G、）

第5回 犬の種類のグループ分けについて（4G、5G、6G、7G）

第6回 犬の種類のグループ分けについて（8G、9G、10G）

第7回 人気犬種①－1

第8回 人気犬種①－2

第9回 人気犬種②－1

第 10/回 人気犬種②－2  
 第 11 回 人気犬種③－1  
 第 12 回 人気犬種③－2  
 第 13 回 人気犬種④  
 第 14 回 人気犬種⑤  
 第 15 回 1 G の犬種①  
 第 16 回 前期の振り返り  
 第 17 回 前期試験  
 第 18 回 1 G の犬種②  
 第 19 回 2 G の犬種  
 第 20 回 2 G の犬種②  
 第 21 回 3 G の犬種①  
 第 22 回 3 G の犬種②  
 第 23 回 5 G の犬種  
 第 24 回 6 G の犬種  
 第 25 回 7 G の犬種  
 第 26 回 8 G の犬種  
 第 27 回 9 G の犬種①  
 第 28 回 9 G の犬種②  
 第 29 回 1 0 G の犬種①  
 第 30 回 1 0 G の犬種②  
 第 31 回 試験対策・振り返り  
 第 32 回 後期期末試験（返却・解説）  
 第 33 回 後期の振り返り  
 第 34 回 後期試験  
 第 35 回 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

演習

#### 教材

まるごとわかる犬種大図鑑／必要に応じてプリントを配布

#### 評価の方法

期末試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

2026 年度

| 授業外での学習方法         |
|-------------------|
| 授業内で出される課題をノートで提出 |

| 実務経験と授業科目の関係 |
|--------------|
| ・            |

## 両生爬虫類学Ⅰ

### 授業の目的・概要

本授業では、両生爬虫類を中心に基本的な生態・形態・飼育など両生爬虫類を利用した就業に必要な技術・知識の習得を目的とする。具体的にはペットショップ、動物園などの就職時に役立つ技術・知識の習得を目指す。

前期では両生類爬虫類の分類や生態、形態など基本的なことを中心に理解する。後期では、両生爬虫類の具体的な飼育法と両生類爬虫類に関する法令などを理解する。また近年行われている両生類爬虫類の研究なども理解する。前期後期を通して、定期的なレポート作成課題も行う。

|      |       |         |     |
|------|-------|---------|-----|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 伊藤  |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年    | 年間単位数   | 1単位 |

### 目標

#### 前期

- ・現存している両生類爬虫類の分類と代表種の説明をする
- ・両生類爬虫類の形態について理解することができる
- ・両生類爬虫類の基本的な生態を理解する

#### 後期

- ・両生爬虫類の具体的な飼育法などを理解できる
- ・両生類爬虫類に関する法令や条約などを理解する
- ・近年行われている両生類爬虫類の研究などの理解をする

### 授業計画

#### 前期

- ・第1回 自己紹介,アイスブレイク,授業概要説明,課題作成時の注意点
- ・第2回 両生類(両生綱)の分類について(有尾目)
- ・第3回 両生類(爬虫綱)の分類について(無尾目)
- ・第4回 爬虫類(爬虫綱)の分類について(有鱗目)
- ・第5回 爬虫類(爬虫綱)の分類について(カメ目、ワニ目)
- ・第6回 両生類の形態
- ・第7回 両生類の成長
- ・第8回 爬虫類の形態1(有鱗目)
- ・第9回 爬虫類の形態2(カメ目、ワニ目)
- ・第10回 爬虫類の成長
- ・第11回 両生類の生態
- ・第12回 爬虫類の生態1(有鱗目)
- ・第13回 爬虫類の生態2(カメ目、ワニ目)
- ・第14回 両生爬虫類の採取法とその注意点
- ・第15回 前期試験対策
- ・第16回 前期試験
- ・第17回 採点期間
- ・第18回 前期試験フィードバック

#### 後期

- ・第19回 両生類の飼育法1(飼育環境、レイアウト)
- ・第20回 両生類の飼育法2(病気など飼育の際の注意点)
- ・第21回 爬虫類(ヘビ)の飼育法(飼育環境、レイアウト)
- ・第22回 爬虫類(大型トカゲ)の飼育法(飼育環境、レイアウト)
- ・第23回 爬虫類(小型トカゲ)の飼育法(飼育環境、レイアウト)
- ・第24回 爬虫類の飼育法(病気など飼育の際の注意点)
- ・第25回 ワシントン条約について
- ・第26回 種の保存法・天然記念物など国内法1

- ・第27回 種の保存法・天然記念物など国内法2
- ・第28回 両生類の学術研究
- ・第29回 爬虫類の学術研究
- ・第30回 後期試験対策
- ・第31回 後期試験
- ・第32回 後期試験採点期間
- ・第33回 後期試験フィードバック
- ・第34回 前期授業の振り返り
- ・第35回 後期授業の振り返り

#### 授業の方法

講義、演習

#### 教材

授業内容についてのプリントなど適宜配布

#### 評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

次回授業について、わからない単語などは予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業ごとに出てくる両生爬虫類で知らなかった種や授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。学術的な引用を用いたレポートなどの課題の作成も行う。

#### 実務経験と授業科目の関係

あり

## 動物生態学

### 授業の目的・概要

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義を通して昆虫からは哺乳類、植物など幅広い生物の生態に関心を持つ。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 伊藤   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

- ＊五界説を理解することができる
- ＊生物分類技能検定 4 級に合格することができる
- ＊生物と環境、生物と生物同士の関係について理解することができる
- ＊自然環境下での生態を理解することにより、飼育生物にストレスを与えないような環境エンリッチメントを考えることができる

### 授業計画

- 1 回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2 回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3 回 生物の系統①（原核生物とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 4 回 生物の系統②（原生生物、菌界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 5 回 生物の系統③（植物界とは①：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
顕花植物、単子葉植物、双子葉植物とは
- 6 回 生物の系統④（植物界とは②：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
栄養根の塊根、塊茎とは
- 7 回 生物の系統⑤（植物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
葉のつき方、葉の形などの単葉・複葉、花の枚数など
- 8 回 生物の系統⑥（植物界とは④：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
分類群ごとの特徴（アブラナ科、キク科など）

- 9 回 生物の系統⑦（動物界とは①：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
は乳類、鳥類
- 10 回 生物の系統⑧（動物界とは②：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
鳥類、両生類、は虫類 分類群ごとの特徴
- 11 回 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
魚類、水生生物 分類群ごとの特徴
- 12 回 生物の系統⑩（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
昆虫類①：昆虫綱と鉄角綱の違い、分類群ごとの特徴
- 13 回 生物の系統⑪（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）  
昆虫類② 分類群ごとの特徴
- 14 回 生態系とは（バイオスフィア実験からみる生態系）
- 15 回 生物群集とは（食物連鎖、食物網）
- 16 回 前期の振り返り
- 17 回 前期試験
- 18 回 生物と環境①（作用：ベルクマンの法則）
- 19 回 生物と環境②（作用：アレンの法則）
- 20 回 生物と環境③（反作用）
- 21 回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）
- 22 回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）
- 23 回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 24 回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 25 回 生物と環境⑧（擬態と擬装について、種内競争：眼状紋、制服擬態）
- 26 回 生物と環境⑨（擬態と擬装について、偽物型擬態、攻撃擬態）
- 27 回 生物と環境⑩（異種間との関係、共生：相利共生）
- 28 回 生物と環境⑪（異種間との関係、共生：片利共生、片害）
- 29 回 生態系における異種間との種間関係の意義
- 30 回 健全な生態系とは
- 31 回 後期の振り返り
- 32 回 後期試験
- 33 回 1 年間の総復習①
- 34 回 1 年間の総復習②
- 35 回 2 年生に向けての基礎知識確認

#### 授業の方法

- \* 本講義では、具体的な例を挙げて説明する
- \* 必要に応じて、生物分類技能検定の過去問の解説を行う

教材

- \*ニューステージ 新生物図表（浜島書店、2026）
- \*授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

- \*試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

- \*事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- \*過去問を多く解く
- \*授業だけでなく、普段の生活の中で身近な生物（昆虫、鳥類、植物）に関心をもって観察する

実務経験と授業科目の関係

あり

# 動物看護概論Ⅰ

## 授業の目的・概要

本授業は動物業界への就職を目指す学生を対象に、犬猫を中心とした伴侶動物の健康管理に関する基礎知識と実践的理解を身につけることを目的とする。運動や排泄管理、全身のケア、口腔衛生、熱中症予防などの日常的ケアから、ワクチンや寄生虫予防、登録制度といった予防医学の基礎を体系的に学ぶ。また犬種・猫種ごとの疾患傾向や中毒などの危険要因についても理解を深め、動物の健康維持に必要な観察力と判断力の基礎を養う。前後期の復習を通して知識の定着を図り、現場での適切なケアにつなげる。

|      |       |         |     |
|------|-------|---------|-----|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 三輪  |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年    | 年間単位数   | 1単位 |

## 目標

### 前期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について理解することができる。

正常時と異常時の違いを理解することで、異常時に早く気づき、対応することができる。

### 後期

1学期に引き続き健康学と予防について学ぶ。またそれらを基礎とし、様々な疾患について理解することができる。

## 授業計画

- 1回 授業について
- 2回 散歩・運動について
- 3回 排泄、排尿について
- 4回 全身のお手入れ、各疾患について①
- 5回 全身のお手入れ、各疾患について②
- 6回 全身のお手入れ、各疾患について③
- 7回 口腔衛生について①
- 8回 口腔衛生について②
- 9回 口腔衛生について③
- 10回 熱中症について①
- 11回 熱中症について②

- 12回 犬の登録
- 13回 ワクチンで予防できる病気（犬）
- 14回 ワクチンで予防できる病気（猫）
- 15回 前期復習
- 16回 前期試験
- 17回 犬糸状虫症の予防について
- 18回 前期授業の振り返り
- 19回 外部寄生虫について①
- 20回 外部寄生虫について②
- 21回 外部寄生虫について③
- 22回 腸内寄生虫について①
- 23回 腸内寄生虫について②
- 24回 腸内寄生虫について③
- 25回 犬種によって多く見られる疾患について①
- 26回 犬種によって多く見られる疾患について②
- 27回 猫種によって多く見られる疾患について①
- 28回 猫種によって多く見られる疾患について②
- 29回 中毒について①
- 30回 中毒について②
- 31回 後期復習
- 32回 後期試験
- 33回 1年間の総復習①
- 34回 1年間の総復習②
- 35回 2年生に向けての基礎固め

#### 授業の方法

講義、グループワーク

#### 教材

自作プリント、教科書（コンパニオンアニマルの健康管理学）

#### 評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に判断する。

#### 授業外での学習方法

授業用のプリントと教科書を各自見直し、纏める。

実務経験と授業科目の関係

あり

## 動物人間関係論Ⅰ

### 授業の目的・概要

人と動物の関係について、その歴史と現在の状況について学ぶ。動物と暮らすことの恩恵、適切に関わるための知識（人と動物の福祉、動物介在介入、虐待等）についての理解を深め、動物看護師として社会の人々を支援できる力を育てる。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 吉原   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | -    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

#### 前期

人と動物の関わりの歴史と現在の状況について学び、ペットが人に与える影響について理解できる。

日本と欧米の動物の在り方について、その違いを説明できる。

#### 後期

動物介在介入について理解し、動物福祉の観点から活動を評価できる。

人と動物の福祉の観点について学び、適正飼育や虐待についての知識を深め、自分で考える力を持つ。

### 授業計画

- 第1回 人と動物の関係学：導入ガイダンス
- 第2回 なぜペットを飼うのか（4章－1）
- 第3回 ペットの効果、現状（4章－2）
- 第4回 人と動物の関係の歴史（1章－1）
- 第5回 動物と宗教（1章－1）
- 第6回 動物と日本の文化（1章－2）
- 第7回 日本と西洋の動物との関わりの比較（1章－3）

- 第 8 回 前期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第 9 回 現代の動物の使用状況 (2 章-1)
- 第 10 回 人の健康への動物の効果 (2 章-2)
- 第 11 回 動物介在療法の歴史 (3 章-1)
- 第 12 回 動物介在介入の定義 (3 章-1)
- 第 13 回 学校飼育動物の現状 (3 章-3)
- 第 14 回 動物介在介入のまとめ
- 第 15 回 前期のまとめ、復習とディスカッション
- 第 16 回 前期試験
- 第 17 回 採点期間のため読書課題
- 第 18 回 前期試験返却・試験の振り返り
- 第 19 回 動物の役割 (使役場面、高齢者、子供) (4 章-5)
- 第 20 回 学校飼育動物の目的と実際、子供と動物 (3 章-3)
- 第 21 回 動物介在活動を実施するために (3 章-2)
- 第 22 回 動物虐待の定義と背景 (5 章-1)
- 第 23 回 動物虐待の対処と法規制 (5 章-2,3)
- 第 24 回 動物虐待・動物利用を考える
- 第 25 回 後期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第 26 回 ペットの現状について (4 章-1,2)
- 第 27 回 ペットと幸せに暮らすために (4 章-3)
- 第 28 回 ペットへの愛着と依存 (4 章-4)
- 第 29 回 ペットロス (4 章-5)
- 第 30 回 多頭飼育の問題 (5 章-4)
- 第 31 回 高齢化による飼育困難 (5 章-6)
- 第 32 回 ベテリナリーソーシャルワーク (5 章-7)
- 第 33 回 後期試験

第 34 回 採点期間のため読書課題

第 35 回 後期試験返却・試験の振り返り

#### 授業の方法

授業用プリントへの書き込み、板書、テキスト教材を用いた講義

#### 教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(4 巻)、授業用プリント、資料動画

#### 評価の方法

試験 60%、レポートの取り組み姿勢 20% で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事前事後学習：各授業回の教科書指定範囲を読むこと、参考書籍の読書、授業時間外の質問対応

#### 実務経験と授業科目の関係

-

# 栄養学Ⅰ

## 授業の目的・概要

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、これらの基礎知識を基に、犬猫以外の動物にも応用可能な栄養管理の考え方を理解し、動物関連業界において幅広く対応できる能力の育成を目指す。

|      |       |         |     |
|------|-------|---------|-----|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 伊勢  |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年    | 年間単位数   | 1単位 |

## 目標

### 前期

犬および猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。

また、栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を身に付けることができる。

### 後期

ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。

さらに、個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を向上させることができる。

## 授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（たんぱく質の消化）
- 4回 五大栄養素（炭水化物）
- 5回 五大栄養素（炭水化物の消化）
- 6回 五大栄養素（脂質）
- 7回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8回 五大栄養素（ビタミン）

- 9回 五大栄養素（ビタミンの消化）
- 10回 五大栄養素（ミネラル）
- 11回 五大栄養素（ミネラルの消化）
- 12回 ボディコンディションスコア（BCS）
- 13回 エネルギー要求量（種類）
- 14回 エネルギー要求量（計算方法）
- 15回 エネルギー要求量（計算してみる）
- 16回 前期の振り返り
- 17回 前期試験
- 18回 フードの歴史
- 19回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 20回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 21回 パッケージの見方
- 22回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 23回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 24回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 25回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 26回 食物アレルギー
- 27回 犬猫が食べてはいけないもの（食物）
- 28回 犬猫が食べてはいけないもの（植物）
- 29回 PB と NB の違い
- 30回 手作り食
- 31回 サプリメント（使い方）
- 32回 サプリメント（形状と特徴）
- 33回 後期の振り返り
- 34回 後期試験
- 35回 1年間の総まとめ

#### 授業の方法

講義

#### 教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

#### 評価の方法

試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学

習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

・

# 昆虫学 I

## 授業の目的・概要

昆虫類は地球の幅広い環境に適応しているが、その優れた能力から我々が学ぶことは非常に多く、人類が豊かな生活をしていく上で「昆虫学」という科学分野は必要不可欠である。

前期で「昆虫とは何か」「昆虫の能力・食性」を説明できるようになり、後期では「昆虫の擬態や社会性」について説明できるようになり、「昆虫の分類の基礎」を理解する。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 伊藤   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

## 目標

### 前期

- 「昆虫とは何か」を説明できる。
- 「昆虫の能力」について説明できる。
- 「昆虫の食性」について説明できる。

### 後期

- 昆虫の擬態や社会性について説明できる。
- 様々な生息域に住む昆虫について説明できる。
- 昆虫の分類の基礎について理解する。

## 授業計画

- 1 回 アイスブレイク、自己紹介
- 2 回 昆虫とは
- 3 回 昆虫と人との関わり
- 4 回 昆虫の体のつくり①
- 5 回 昆虫の体のつくり②
- 6 回 昆虫の運動能力①
- 7 回 昆虫の運動能力②
- 8 回 昆虫の交信
- 9 回 昆虫の生殖
- 10 回 昆虫の食性について①
- 11 回 昆虫の食性について②
- 12 回 寄生者について

- 13 回 昆虫を扱う施設紹介
- 14 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介、試験対策
- 15 回 前期の振り返り
- 16 回 試験対策
- 17 回 前期試験
- 18 回 水生昆虫①
- 19 回 水生昆虫②
- 20 回 海洋島の昆虫
- 21 回 擬態をする昆虫①
- 22 回 擬態をする昆虫②
- 23 回 昆虫の飛翔①
- 24 回 昆虫の飛翔②
- 25 回 社会性の昆虫①
- 26 回 社会性の昆虫②
- 27 回 益虫と害虫
- 28 回 分子情報による系統推定
- 29 回 希少な昆虫について
- 30 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介
- 31 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介、試験対策
- 32 回 後期の振り返り
- 33 回 試験対策
- 34 回 後期試験
- 35 回 1 年間の総まとめ

#### 授業の方法

講義

#### 教材

スライドを使用する。必要に応じて参考資料を配布する。

#### 評価の方法

期末試験 60%、レポートへの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

事前学習として、次回講義に関する情報を調べておく。普段から昆虫を見る・触れる等の経験をしてお

2026 年度

く。

事後学習として、自分でメモを取る・配布資料を読み直す等、講義内容を振り返り、気になる昆虫に関して詳しく説明が出来るようになる。

実務経験と授業科目の関係

あり

## 魚類生理生態学Ⅰ

### 授業の目的・概要

魚類と総称される生き物について、その分類・生理・生態の基礎を理解し、水族館やアクアショップなどで要される「飼育管理」ならびに「他者への説明」の能力を培う。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 姉崎   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | -    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 1 単位 |

### 目標

#### 【前期】

- ①魚類の分類体系を説明することができる
- ②魚類の体の構造を説明することができる
- ③魚類の多様性を説明することができる

#### 【後期】

- ①魚類の基礎的な生理機能を説明することができる
- ②魚類の繁殖・発達を説明することができる
- ③飼育管理と対象魚種の生理・形態的特性を関連付けることができる

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 魚類とは
- 第3回 分布と回遊
- 第4回 体形と形態測定
- 第5回 体表の構造
- 第6回 筋肉系

- 第7回 骨格
- 第8回 摂食・消化系
- 第9回 鰓
- 第10回 呼吸器
- 第11回 循環系と血液
- 第12回 腎臓と浸透調節
- 第13回 神経系
- 第14回 感覚器
- 第15回 試験範囲説明
- 第16回 前期期末試験
- 第17回 採点期間（自宅課題）
- 第18回 試験返却・試験の振り返り
- 第19回 発音・発電・発光
- 第20回 内分泌系
- 第21回 生殖腺と繁殖様式
- 第22回 仔魚・稚魚
- 第23回 水生環境
- 第24回 飼料と栄養
- 第25回 魚類の免疫学
- 第26回 演習\_プレゼンテーション課題への取り組み①
- 第27回 演習\_プレゼンテーション課題への取り組み②
- 第28回 演習\_プレゼンテーション課題への取り組み③
- 第29回 演習\_課題発表①
- 第30回 試験範囲説明
- 第31回 後期期末試験
- 第32回 採点期間（自宅課題）

第 33 回 試験返却・試験の振り返り

第 34 回 演習\_課題発表②

第 35 回 年間まとめ

授業の方法

講義・演習

教材

必要な場合配布する。

評価の方法

期末試験 60%、レポートの取り組み姿勢 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う。

実務経験と授業科目の関係

・

# 哺乳類飼育概論・実習Ⅰ

## 授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物園、水族館、動物保護スタッフ）や愛玩動物飼養管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物・魚類の飼育方法や健康管理方法を実践実習を通して習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

|      |       |         |     |
|------|-------|---------|-----|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 植田  |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | ○   |
| 対象年次 | 1年    | 年間単位数   | 2単位 |

## 目標

### 前期

- ・飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測や常に安全を考慮した行動することができるようになる。
- ・実習活動時にメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談などの社会人に必要なスキルを身に着ける。

### 後期

- ・前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や進級時の卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識を身に着ける。

## 授業計画

### [前期]

- 第1週 小動物飼育 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）
- 第2週 小動物飼育 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
- 第3週 小動物飼育 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
- 第4週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
- 第5週 小動物飼育 掃除・給餌について飼育実践
- 第5週 小動物飼育 健康管理について飼育実践
- 第6週 小動物飼育 保定方法について飼育実践

|      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 第7週  | 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）            |
| 第8週  | 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第9週  | 小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業）              |
| 第10週 | 小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）      |
| 第11週 | 小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業）            |
| 第13週 | 小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第14週 | 小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業）            |
| 第15週 | 小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第16週 | 前期試験                              |
| 第17週 | 前期まとめ・調べ学習                        |
| 第18週 | 試験返却・試験の振り返り                      |
| [後期] |                                   |
| 第19週 | 小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業）             |
| 第20週 | 小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）     |
| 第21週 | 小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業）              |
| 第22週 | 小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）      |
| 第23週 | 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業）            |
| 第24週 | 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第25週 | 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業）          |
| 第29週 | 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）  |
| 第30週 | 後期試験                              |
| 第31週 | 後期まとめ・調べ学習                        |
| 第32週 | 試験返却・試験の振り返り                      |
| 第33週 | 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業）         |
| 第34週 | 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） |
| 第35週 | 1年の振り返り                           |

#### 授業の方法

講義形式にて飼育の基礎を理解した後、実習を行っていく。

#### 教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

#### 評価の方法

試験 40%、飼育実習の姿勢 40%、レポートへの取り組み姿勢 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

|              |
|--------------|
| 実務経験と授業科目の関係 |
| あり           |

# エキゾチックアニマル飼育・概論実習Ⅰ

## 授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物園、水族館、動物保護スタッフ）や愛玩動物飼養管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物・魚類の飼育方法や健康管理方法を実践実習を通して習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 和泉   |
| コース  | -     | 教員の実務経験 | -    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 2 単位 |

## 目標

### 前期

- ・飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測や常に安全を考慮した行動することができるようになる。
- ・実習活動時にメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談などの社会人に必要なスキルを身に着ける。

### 後期

- ・前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や進級時の卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識を身に着ける。

## 授業計画

### [前期]

- 第1週 小動物飼育 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）
- 第2週 小動物飼育 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
- 第3週 小動物飼育 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
- 第4週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
- 第5週 小動物飼育 掃除・給餌について飼育実践
- 第5週 小動物飼育 健康管理について飼育実践
- 第6週 小動物飼育 保定方法について飼育実践

|      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 第7週  | 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）            |
| 第8週  | 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第9週  | 小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業）              |
| 第10週 | 小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）      |
| 第11週 | 小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業）            |
| 第13週 | 小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第14週 | 小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業）            |
| 第15週 | 小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第16週 | 前期試験                              |
| 第17週 | 前期まとめ・調べ学習                        |
| 第18週 | 試験返却・試験の振り返り                      |
| [後期] |                                   |
| 第19週 | 小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業）             |
| 第20週 | 小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）     |
| 第21週 | 小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業）              |
| 第22週 | 小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）      |
| 第23週 | 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業）            |
| 第24週 | 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）    |
| 第25週 | 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業）          |
| 第29週 | 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）  |
| 第30週 | 後期試験                              |
| 第31週 | 後期まとめ・調べ学習                        |
| 第32週 | 試験返却・試験の振り返り                      |
| 第33週 | 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業）         |
| 第34週 | 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理） |
| 第35週 | 1年の振り返り                           |

#### 授業の方法

講義・実習

#### 教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

#### 評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマル、両生爬虫類、飼育用品概論のノートの見直し

| 実務経験と授業科目の関係 |
|--------------|
| -            |

## 水槽管理概論・実習Ⅰ

### 授業の目的・概要

本授業では、水槽管理に必要な基礎知識と実践的な技術を学び、アクアリウム・水族館業界で求められる飼育管理能力を身につけることを目的とする。淡水・海水それぞれの水質管理やろ過、機材メンテナンス、生体の健康管理などを体系的に学習し、安全で適切な飼育環境を維持する力を養う。また、水草やサンゴの育成、レイアウト技術、コケ対策などを通して、観賞性と管理技術の両面を理解する。さらに、生体発表や調べ学習を通じて探究心や発信力を高め、現場で主体的に行動できる実践的な人材育成を目指す。

|      |       |         |      |
|------|-------|---------|------|
| 科    | 通信制学科 | 教員      | 姉崎   |
| コース  | ・     | 教員の実務経験 | ・    |
| 対象年次 | 1 年   | 年間単位数   | 2 単位 |

### 目標

- ・ 基本的な水槽管理業務(水替え、水槽周り美化、水質検査、機材メンテナンス)等が行えるようになる
- ・ 生体の健康管理(給餌、状態チェック、状態異常への適切な対処)等を行えるようになる
- ・ 水槽の立ち上げ作業からリセット作業までを行うことができるようになる
- ・ 水槽管理業務に必要なコミュニケーション能力を身につける

### 授業計画

#### [前期]

- 第1週 前期授業について、水槽管理に対しての心得
- 第2週 水槽管理において必要なもの一式解説(淡水海水共に)
- 第3週 水換えについて(RO 水や浄水器説明、人工海水作成含む)、バッキングについて
- 第4週 水槽の掃除、美化について

第5週 機材メンテナンスについて

第6週 病気についてと魚の健康チェックについて(魚の導入含む)

第7週 魚の健康管理について

第8週 餌について

第9週 バクテリアについて

第10週 水質について①-主に淡水(水質検査含む)

第11週 水質について②-主に海水(水質検査含む)

第12週 ろ過について

第13週 水槽の立ち上げについて

第14週 様々な飼育スタイルについて

第15週 前期内容の振り返り

第16週 前期試験

第17週 前期のまとめ・調べ学習

第18週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

第19週 後期の授業について、夏休み期間の振り返り

第20週 好きな魚、水生生物を発表(1人1種または1系統)

第21週 レイアウトについて-淡水編

第22週 レイアウトについて-海水編

第23週 コケの種類と原因、対策について

第24週 水草育成について①-種類、育成環境

第25週 水草育成について②-維持管理

第26週 サンゴ育成について①-種類、育成環境

第27週 サンゴ育成について②-維持管理

第28週 水槽管理における淡水と海水の違い

第29週 水槽のリセットについて(半リセット含む)

第 30 週 後期内容の振り返り

第 31 週 後期試験

第 32 週 後期のまとめ・調べ学習

第 33 週 試験返却・試験の振り返り

第 34 週 好きな魚、水生生物について発表(前半組)

第 35 週 好きな魚、水生生物について発表(後半組)

#### 授業の方法

各必要知識に対する座学講義と、地下実習室の水槽を用いた実技実習を行う。

#### 教材

適宜必要な資料の配布を行う。

また地下実習室の水槽を教材とし日々の授業に活用する。

#### 評価の方法

試験 40%、授業への参画 20%、課題への取り組み 40%で総合的に判断する。

#### 授業外での学習方法

授業内容をノートにまとめる。

ノートには授業内容での疑問や質問を授業毎に 1 つ以上書くことをルールとする。

用品について調べ物学習を行う。

地下の実習水槽の管理。

#### 実務経験と授業科目の関係

・